

ステークホルダーとのコミュニケーション



日産のビジョン「人々の生活を豊かに」。これは、今日のすべてのステークホルダーの方々と、これから生まれ来る将来世代のために、持続可能な未来を築いていくことを目指すものです。そのために私たちは、日産の理念や活動、提供できる価値を皆さまに透明性をもって伝え、ご理解を深めていただくとともに、皆さまと持続可能性についての考えを共有していくことを重視したいと思います。賛同も、厳しいご意見もあるでしょう。しかし厳しい意見の中にこそ、日産を成長させる要素があります。ステークホルダーの方々と対話を通じて、皆さまとともに、持続可能な社会を目指していくことを願っています。

サステナビリティレポートと 環境報告書を読む会

持続可能性における活動をまとめた「サステナビリティレポート」、環境面の活動をまとめた「環境報告書」は、ともにステークホルダーの皆さまとの対話を促進するためのツールとなることを期待し、発行しています。その機会のひとつとして、2005年2月8日、両レポートを題材に、公募した読者の方々と意見交換を行う「サステナビリティレポート・環境報告書を読む会」を日産自動車(株)本社(東京・銀座)で開催しました。環境報告書としては3回目、サステナビリティレポートとしては初となる今回は、一般市民、学生、NPO、消費者団体、サプライヤー、販売会社など、約40名の方にご参加いただき、4時間にわたりディスカッションを行いました。「サステナビリティレポート」を新たに発行し、「環境報告書」もあわせてリニューアルしたのを受け、今回の「読む会」は、より皆さまと近しく具体的な対話ができ



る場にしたいと考えました。両報告書の担当者を中心に、多くの社員が参画して準備を進め、当日はアットホームな雰囲気の中で、忌憚のない貴重なご意見を多く頂くことができました。また今回は、グループディスカッションとして「品質保証とお客さまの声を生かす活動」「人材開発」「クルマの安全性能」「クルマの環境性能」「工場・物流・販売店での環境への取り組み」「リサイクル」の6テーマについて、日産の担当者を囲み意見交換を行いました。

レポートの良い点としては、「ストーリー性があって読みやすく分かりやすい」「課題が明確で日産の考え方が分かった」。改善すべき点として「サステナビリティレポートと環境報告書の関係が分かりにくい」「文章・内容が多く読むのが大変」「データが少ない」。さらに知りたい点として「先進国以外の海外拠点の情報」「他社比較などのデータ」「ビジネスパートナー、地域社会、消費者などへのコミュニケーションに関する情報」などのご指摘を頂きました。

これらのご意見を受けて、今回新たに昨年度からの進捗状況を表示するなど工夫を図りました。

「サステナビリティレポート2005」に対する皆さまのご意見やご感想をぜひお寄せください。皆さまとの対話を通して、皆さまの期待に応える情報開示に努めたいと思っています。

「サステナビリティレポート2005」アンケート(→P72)

日時:	2005年2月8日(火) 13:30~17:20
場所:	日産自動車(株) 本社講堂
参加ステークホルダー:	38名(一般市民、学生、NPO、消費者団体、サプライヤー、販売会社など)
ファシリテーター:	川北 秀人氏 / IIIHOE 「人と組織と地球のための国際研究所」代表者
日産からの参加者:	22名(広報、環境、安全、人事、品質、生産などの担当者)